

# 平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果・分析について

三重県教育委員会  
平成 27 年 10 月 30 日

本年 4 月に小学校第 6 学年、中学校第 3 学年を対象に実施された「平成 27 年度全国学力・学習状況調査」の結果が、8 月 25 日に文部科学省から公表されました。

本県における全国学力・学習状況調査の結果は、依然として、全ての教科で全国の平均正答率を下回るという厳しいものでした。児童生徒の能力を最大限に引き出すことができているとは言い難い状況にあることを、引き続き重く受け止め、学力向上の取組をより加速させていく必要があると考えます。

一方、昨年度大きな課題が見られた「小学校国語」や「小学校算数」を含め、10 教科中 9 教科で全国の平均正答率との差が前回より縮まり、小中学校ともに改善の兆しが見られました。特に、小学校国語 B や中学校数学 A は、ほぼ全国の平均正答率の水準となったことをはじめ、小学校では 4 教科(国語 B、算数 A、算数 B、理科)で、全国の平均正答率との差が調査開始以来最も縮まるなど、前回からの変動において全国トップクラスの伸びも示しました。

また、無解答率の状況についても、前回と比べ、全国の平均無解答率との差が、小学校・中学校の全教科で大幅に改善しました。

各学校の取組においては、校長のリーダーシップによる組織的・継続的な取組に注力してきたことにより、校長による授業の見回りや、教員による授業での「目標の提示」、「振り返る活動」の徹底が進むとともに、子どもたちが粘り強く問題に取り組んだ結果、無解答率も改善されるなどの結果が出ています。

これらのことは、県・市町等教育委員会、学校、さらには、保護者、県民の皆様が連携し、それぞれの役割を果たすべく取り組んできたことや、各小中学校において、校長のリーダーシップのもと教職員が一丸となって、「わかる授業」や「個に応じた指導」を行ってきたことの結果であると考えます。あわせて、子どもたち一人ひとりにとっても、日頃子どもたちと接している教職員にとっても、「やればできる」ということを実感することにつながるものと考えます。

今後、校長のリーダーシップによる組織的な取組等、これまでの取組の検証を含めて行った今回の詳細な分析結果を活用し、市町等教育委員会や学校と連携し、取組のさらなる充実を図っていきたいと考えています。

私たち教育に携わる全ての者は、「毎日が未来への分岐点」との認識のもとに、「わかる喜びを実感できること」を大切にしながら、子どもたちの能力を最大限引き出すとともに、子どもたちの笑顔があふれる学校づくりのために取り組んでまいります。引き続き、学校・家庭・地域が一体となって県民総参加で三重の子どもたちの学力を育んでいただきますよう、ご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

※調査結果の取扱いについては、文部科学省が示す実施要領における「7 (5) 調査結果の取扱いに関する配慮事項等」をご覧ください。

なお、本報告書は、株式会社ベネッセコーポレーションの分析協力も得て作成いたしました。